

仙台藝術舎/creek 修了展

「border」

「仙台藝術舎/creek」は、次世代のアーティストやアートに携わる人を育てる学校として2016年に開校しました。10か月に渡り、美術家、美術批評家、キュレーター等を迎え、講義やワークショップなどを通して、同時代の多様な表現を学んでいます。今期（第4期）は、アーティストや、アートについて学びたい11名が受講しており、その受講生による修了展「border」を以下の通り開催します。平面、立体、映像などの表現方法を用いて、個性豊かな面々がアートという一点で繋がり、集まって作り上げるグループ展です。

展覧会情報

展覧会名	「border」
主催	仙台藝術舎/creek
助成	(公財) 仙台市市民文化事業団
出展者	石倉(只野)美萌菜、白鳥大樹、高村拓弥、南城拓哉、二宮雄大、 廣瀬さやか、深谷桃子、Mio、吉田愛美
出展作品	平面、立体、映像 など
日時	2020年3月24日(火)～3月29日(日) 11:00～19:30、初日は19:00迄、最終日は17:00迄 ※3/24(火)19:00～、講師による講評会を行います 講評会は一般に公開しますが、参加には予約が必要です
会場	Gallery TURNAROUND 宮城県仙台市青葉区大手町6-22久光ビル1階 (地下鉄東西線「大町西公園駅」より徒歩5分)
お問い合わせ先・ 講評会予約先	Tel: 022-398-6413 (Gallery TURNAROUND内) Email: info@turn-around.jp

ステートメント

近代以降に定められた直線的な国境線はいまだに諍いを誘発しています。あるいはポスト・トゥルースといわれるいま、メディア技術によって人の感情を操作し多くの反応を獲得することで、真偽は都合よく入れ替え可能になり始めています。他方で、二元的に捉えられていた性については、多様なあり方が認められつつあり固定的だった境界は変化しています。21世紀に入り20年が経過したなかで、過去から引き継いださまざまな事物の境界は揺らぎはじめていえるでしょう。わたしとあなたの境目から、果ては、此岸と彼岸まで、境界とはどのように認識されているのかをあらためて捉えなおしていただくことで、わたしたちの現在の世界のクリティカル・ラインがさまざまな姿であらわれてくると考えます。

仙台藝術舎/creek とは

東日本大震災以後、私たちは混迷する社会を目の当たりにし、それに翻弄されてきました。この行き詰った資本主義社会の中で、私たちは教育から排除されつつある藝術を糧に闘っていかねばならないのです。

21世紀の新たな価値観のもと、藝術表現が現実の社会のまえに疲弊し、消費されることに抗いながら、その真の意味を発揮し生き抜いていくために「仙台藝術舎/creek」をここに創立しました。

「creek」には「川、流れ、支流」という意味があります。「いくつもの支流が合わさり本流を形成する」ように、「仙台・宮城から生まれる新たな表現・表現者が支流を作り、それらがやがて本流と成り得る」という思いを込めています。

現在の社会の中で藝術の教育環境を共創するという試みは、実験的であり挑戦的だと考えます。しかし同時に、必ずやこの支流が大きな流れとなって仙台にたゆたうであろうことを確信しています。

仙台藝術舎/creek 第4期

受講期間	2019年6月～2020年3月
定員	15名程度
講座回数	全32回程度（講義／ワークショップ／展覧会）
講師	青野文昭 （美術家） 「ここで表現活動をするにあたっての様々な話し・思索」 五十嵐太郎 （建築史・建築批評家/東北大学教授） 「日本の論客をとりあげ、美術論の断面を知る」 清水建人 （せんだいメディアテーク学芸員） 「同時代の表現について」 小岩勉 （写真家） 「意味の組み換えとしての写真集の魅力」 佐々瞬 （美術家） ※その他特別講師による講義が数回入ります。
年間スケジュール	6月：開講 12月：課題発表・講評 3月：修了展



問い合わせ先

仙台藝術舎/creek

〒980-0805 宮城県仙台市青葉区大手町6-22 久光ビル1階

Gallery TURNAROUND 内（担当：関本、桃生）

Tel: 022-398-6413

Email: info@turn-around.jp

仙台藝術舎/creek

Facebook

Gallery TURNAROUND

<http://sg-creek.jp>

<https://www.facebook.com/sendai.creek/>

<http://turn-around.jp>